



—カメラアは、ツバキ科の植物の総称です。呉市民の花はつばきであり、本校校歌の歌詞にも含まれています。—

児童生徒が指導者に依存し過ぎていたり、指示を待っていたりすることから、授業自体が「主体的な学び」になりにくいといったことはありませんか？知的障害の障害特性について正しく理解するとともに、改めて「主体的・対話的で深い学び」「課題発見・解決学習」といった視点を基に、授業づくりを大切にしていきたいと思えます。

「主体的な学び」を促す授業づくりの実現に向けて

竹野政彦（令和元年）は、知的障害のある児童生徒への指導上の課題について、児童生徒が「指示や説明の意味が理解できない。」「見通しがもてない。」といった様子を取り上げ、指導者の“児童生徒の実態把握”“取り組む課題の分析”“指導・支援方法や環境整備”について見直す必要があると述べています。

また、藤原義博ら（2012年）は、「授業づくり」における支援の在り方について、著書の中で、物理的支援環境の整備、個のニーズに応じた支援の充足及び適切な人的支援環境の見直しについて示しています。



物理的支援環境の整備

- 机や椅子の配置
- 教材・教具などの物の配置
- 手掛かりの配置
- 児童生徒の配置
- 指導者の配置

適切な人的支援環境の見直し

- 指導者自身が手掛かりであること
- 一歩離れてみる
- 人的支援を適切に求めさせること

個のニーズに応じた支援の充足

- 支援ツールがあることに気付く
- 片付け状態の写真や絵の提示
- 同じような授業の大きな流れ
- スケジュールカード等の操作
- 活動の流れを示す手順表の操作
- キッチンタイマーの活用 など



スケジュールの例（本校小学部）



引用：竹野政彦（令和元年）：「令和元年度広島県立呉特別支援学校江能分級第1回公開授業研究会」『自ら気付き、考えて行動できる授業づくり』配付資料

参考：藤原義博・小林真・阿部美穂子・村中智彦・富山大学人間発達科学部附属特別支援学校（2012年）：『特別支援教育における授業づくりのコツ これならみんな分かって動ける』学苑社

〇〇先生のここをチョイス!

今回は、子供たちが自ら考えて行動できるための指導・支援の工夫について、本校中学部の取組を御紹介します。



作業学習 農業「夏野菜の栽培」では、例年、カラスによる被害に合い、収穫量が減っていました。
そこで、カラス対策について考え、実践することにしました。



ネットを張ったらどうかな?

畑にたくさんテグスを貼り、カラスの羽が当たって逃げるようにしよう!

風に当たると揺れて驚くような凧を貼るといいと思う!



実践した結果、カラスによる被害が減り、収穫量が増えました。今回の取組は、秋冬野菜の栽培「害虫対策」でも、応用します。

作業学習では、指示されたことを理解して取り組むだけでなく、生徒間で考えさせ、目的を達成できる活動を取り入れることで、意欲や集中力、達成感や喜びを味わわせることができると考えます。



広島県立呉特別支援学校

担当者: 専任教育相談主任(特別支援教育コーディネーター) 平川 真衣

住所: 呉市焼山北三丁目 22-1

TEL: (0823) 33-0300 FAX: (0823) 33-0308

